

臨床腫瘍学 I

Clinical Oncology I

単位数：5 単位

○石原 俊治 教授：内科学第二
柴垣広太郎 准教授：光学医療診療部
石村 典久 准教授：消化器内科
林田 健志 准教授：形成外科

1. 科目の教育方針

臨床腫瘍学 I の講義・演習では、消化管に発生する腫瘍の発生病因、疫学、症状、診断、治療に関する新しい知識について広く学ぶ。また、消化管腫瘍の今後の診療の改善についても考える。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

1) 消化管腫瘍をめぐる問題を多方面から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 消化管腫瘍の病因を説明できる。
- 2) 消化管腫瘍の疫学を説明できる。
- 3) 消化管腫瘍の診療の現状を説明できる。
- 4) 消化管腫瘍の診療の今後の展望を説明できる。
- 5) 消化管腫瘍の予防方法を説明できる。
- 6) 特殊な消化管腫瘍の臨床的意味を説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- | | | |
|---------------------------------|-------|------|
| 1) 消化器疾患エッセンシャルドラッグ 1, 2, 3 プラス | 木下芳一編 | 南江堂 |
| 2) 消化器診療スケジュール | 木下芳一編 | 南江堂 |
| 3) 消化器内科薬のルール | 木下芳一編 | 中山書店 |

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	食道癌の疫学 欧米における現況として、食道扁平上皮癌に対する食道腺癌の著明な増加の実態を述べるとともに、本邦の食道癌の疫学について解説する。	柴垣広太郎
2	前癌病態としての Barrett 食道の病態生理および診断 食道腺癌 (Barrett 腺癌) の発生母地である Barrett 食道の病院および病態生理、およびその臨床診断、さらにマネージメントに関する臨床上的の問題点を解説する。	石村典久
3	Barrett 腺癌の発癌メカニズム 病理組織学的ならびに分子生物学的観点から、Barrett 食道からの Barrett 腺癌発癌機序について解説し、その発癌予防法についても紹介する。	石村典久
4	Barrett 腺癌の特殊治療 Barrett 腺癌の生物学的特性について解説し、昨今の様々な Barrett 腺癌特殊治療について紹介する。	石村典久
5	早期食道癌の内視鏡治療 食道癌の早期発見、深達度診断、実際の内視鏡治療の適応、実際について	柴垣広太郎
6	早期胃癌の内視鏡治療 胃癌の早期発見、深達度診断、実際の内視鏡治療の適応、実際について	柴垣広太郎
7	早期胃癌の内視鏡治療後の異時性多発について 早期胃癌の内視鏡治療後の異時性多発に遺伝子修復機構の異常 (Microsatellite Instability) が関与している。	柴垣広太郎
8	Helicobacter pylori 感染と胃癌について	石村典久
9	大腸癌の発癌機構 大腸癌の発癌メカニズムを遺伝子の変異を含めて解説する。	石原俊治
10	家族性大腸癌 APC と HNPCC の発癌メカニズムについて解説する。	石原俊治
11	炎症と大腸癌 潰瘍性大腸炎例の発癌の特殊性について解説する。	石原俊治
12	消化器癌の分子標的治療 分子標的治療薬と消化器領域での臨床応用に入って解説する。	石原俊治
13	細胞内情報伝達と消化器発癌 Ras、Wnt、C-kit 等の細胞内の情報伝達分子の異常と発癌について解説する。	石原俊治
14	増殖因子と発癌 EGF、TGF β 、FGF、SCF 等の増殖因子の発癌との関わりについて解説する。	林田健志
15	消化器癌と HRQOL 消化器癌を有する患者の QOL の変化、その評価方法について解説する。	柴垣広太郎